

## 01 解熱・鎮痛・抗炎症剤

## 1 非麻薬性鎮痛剤

## 1. 1 単剤

(トラマドール塩酸塩)

▶ **トラマールカプセル25mg** (劇)

Tramal 25mg/Cp [日本新薬]

【効】軽度から中等度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛

【用】(内) 1日100～300mgを4回に分  
割、1回100mg、1日400mgまで

【禁】本剤の成分に対し過敏症、アルコール、睡眠剤、鎮痛剤、オピオイド鎮痛剤又は向精神薬による急性中毒患者、MAO阻害剤を投与中又は投与中止後14日以内、治療により十分な管理がされていないてんかん患者

【重副】ショック、アナフィラキシー様症状、痙攣、依存性(長期使用時に、耐性、精神的依存及び身体的依存。本剤の中止又は減量時において、激越、不安、神経過敏、不眠症、運動過多、振戦、胃腸症状、パニック発作、幻覚、錯感覚、耳鳴等の退薬症候)

(ブプレノルフィン塩酸塩)

▶ **レペタン注0.3mg** (劇)(回)

Lepetan 0.3mg/1.5mL/A [大塚]

【効】①次記疾患並びに状態における鎮痛：(1)術後、各種癌。(2)心筋梗塞症。②麻酔補助

【用】(注) ① (1) 1回0.2mg～0.3mg (4μg/kg～6μg/kg)を筋注。初回量は0.2mgとすることが望ましい。約6～8時間ごとに反復注射。(2) 1回0.2mgを徐々に静注。②0.2mg～0.4mg (4μg/kg～8μg/kg)を麻酔導入時に徐々に静注

【禁】本剤の成分に対し過敏症、重篤な呼吸抑制状態及び肺機能障害・肝機能障害、頭部傷害、脳に病変のある場合で意識混濁が危惧される患者、頭蓋内圧上昇、妊婦又は妊娠している可能性【重副】呼吸抑制、呼吸困難、舌根沈下、ショック、せん妄、妄想、長期使用により依存性、急性肺水腫、血圧低下から失神

(ペンタゾシン)

▶ **ペンタジン注射液15mg** (劇)(回)

Pentagin 15mg/1mL/A [第一三共]

【効】①次記疾患並びに状態における鎮痛：各種癌、術後、心筋梗塞、胃・十二指腸潰瘍、腎・尿路結石、閉塞性動脈炎、胃・尿管・膀胱検査器具使用時。②麻酔前投薬及び麻酔補助

【用】(注) ①1回15mgを筋注又は皮下注、その後、必要に応じて、3～4時間毎に反復注射。②30～60mgを筋注、皮下注、静注

【禁】本剤の成分に対し過敏症、頭部傷害又は頭蓋内圧上昇、重篤な呼吸抑制状態及び全身状態が著しく悪化

【重副】ショック、アナフィラキシー様症状、呼吸抑制、連用により依存性、Lyell症候群、無顆粒球症、大量連用により神経原性筋障害、痙攣

## 1. 2 配合剤

▶ **トラムセット配合錠** (劇)

Tramcet [配合剤] [ヤンセン]

1錠中：  
トラマドール塩酸塩 37.5mg  
アセトアミノフェン 325mg

01 【効】非オピオイド鎮痛剤で治療困難な次記疾患における鎮痛：①非がん性慢性疼痛。②抜歯後の疼痛

【用】(内) ①1回1錠，1日4回。投与間隔は4時間以上空ける。1回2錠，1日8錠まで。空腹時の投与禁止希望。②1回2錠。追加投与の場合は，投与間隔を4時間以上空ける。1回2錠，1日8錠まで。空腹時の投与禁止希望

【警告】1. 本剤により重篤な肝障害が発現するおそれがあることに注意し，アセトアミノフェンの1日総量が1500mg（本剤4錠）を越す高用量で長期投与する場合には，定期的に肝機能等を確認するなど，慎重に投与すること（「重要な基本的注意」の項参照）。

2. 本剤とトラマドール又はアセトアミノフェンを含む他の薬剤（一般用医薬品を含む）との併用により，過量投与に至るおそれがあることから，これらの薬剤との併用を避けること（「過量投与」の項参照）

【禁】アルコール・睡眠剤・鎮痛剤・オピオイド鎮痛剤又は向精神薬による急性中毒患者，MAO阻害剤を投与中又は投与中止後14日以内，治療により十分な管理がされていないかん患者，消化性潰瘍，重篤な血液の異常，重篤な肝障害，重篤な腎障害，重篤な心機能不全，アスピリン喘息（非ステロイド製剤による喘息発作の誘発）又はその既往歴，本剤の成分に対し過敏症

【重副】ショック，アナフィラキシー様症状，痙攣，依存性，Lyell症候群，Stevens-Johnson症候群，喘息発作の誘発，肝機能障害，黄疸，顆粒球減少症

## 2 ピリン系解熱鎮痛剤

（スルピリン水和物）

▶メチロン注25%

Metilon 500mg/2mL/A [第一三共]

【効】他の解熱剤では効果が期待できないか，あるいは他の解熱剤の投与が不可能な場合の緊急解熱

【用】(注) 1回0.25g，最大0.5gを皮下注又は筋注。症状の改善が認められない時には1日2回を限度として皮下注又は筋注。経口投与，直腸内投与が可能になった場合には速やかに経口投与又は直腸内投与に切り替える。長期連用は避けるべきである

【警告】ショック等の重篤な副作用が発現することがあるので，効能・効果，使用上の注意に特に留意すること

【禁】本剤の成分又はピラズロン系化合物に対し過敏症，先天性G-6PD欠乏症，消化性潰瘍，重篤な血液異常・肝障害・腎障害・心機能不全，アスピリン喘息又はその既往歴

【重副】ショック，Stevens-Johnson症候群，Lyell症候群，剥脱性皮膚炎，再生不良性貧血，無顆粒球症，黄疸，急性腎不全

## 3 非ピリン系解熱鎮痛剤

（アセトアミノフェン）

▶アンヒバ坐剤小児用100mg

Anhiba 100mg/個 [アボット]

▶アンヒバ坐剤小児用200mg

Anhiba 200mg/個

【効】小児科領域における解熱・鎮痛

【用】(外) 乳児・幼児・小児：1回10～15mg/kgを直腸内に挿入。投与間隔4～6時間以上，1日総量として60mg/

kgを限度、成人の用量を超えない

**【警告】**1. 本剤により重篤な肝障害が発現するおそれがあるので注意すること。〔重要な基本的注意〕の項参照

2. 本剤とアセトアミノフェンを含む他の薬剤（一般用医薬品を含む）との併用により、アセトアミノフェンの過量投与による重篤な肝障害が発現するおそれがあることから、これらの薬剤との併用を避けること。〔過量投与〕の項参照

**【禁】**重篤な血液の異常・肝障害・腎障害・心機能不全、本剤の成分に対し過敏症、アスピリン喘息又はその既往歴  
**【重副】**ショック、アナフィラキシー様症状、Stevens-Johnson症候群、Lyell症候群、肝機能障害、黄疸、喘息発作の誘発、顆粒球減少症

.....  
(アセトアミノフェン)

▶**カロナール錠200mg** (後) Calonal 200mg/錠 (昭和薬品)

**【効】**①次記の疾患並びに症状の鎮痛：頭痛、耳痛、症候性神経痛、腰痛症、筋肉痛、打撲痛、捻挫痛、月経痛、分娩後痛、がんによる疼痛、歯痛、歯科治療後の疼痛、変形性関節症。②次記疾患の解熱・鎮痛：急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む）。③小児科領域における解熱・鎮痛

**【用】**(内) ①1回300～1000mg、投与間隔は4～6時間以上とし、1日総量4000mgまで、空腹時投与禁止希望。②1回300～500mgを頓用。1日2回まで、1日1500mgまで。空腹時投与禁止希望。③1回10～15mg/kg。投与間隔は4～6時間以上とし、1日総量60mg/kgまで。成人の用量を超えない。空腹時投

与禁止希望

**【警告】**1. 本剤により重篤な肝障害が発現するおそれがあることに注意し、1日総量1500mgを超す高用量で長期投与する場合には、定期的に肝機能等を確認するなど慎重に投与すること。（「重要な基本的注意8.」の項参照）

2. 本剤とアセトアミノフェンを含む他の薬剤（一般用医薬品を含む）との併用により、アセトアミノフェンの過量投与による重篤な肝障害が発現するおそれがあることから、これらの薬剤との併用を避けること。（「過量投与」の項参照）

**【禁】**消化性潰瘍、重篤な血液異常・肝障害・腎障害・心機能不全、本剤の成分に対し過敏症、アスピリン喘息又はその既往歴

**【重副】**ショック、アナフィラキシー様症状、Stevens-Johnson症候群、Lyell症候群、喘息発作の誘発、肝機能障害、黄疸、顆粒球減少症

.....  
(アセトアミノフェン)

▶**ピリナジン末** (劇) Pynazin 原末 (田辺製薬)

**【効】**①次記の疾患並びに症状の鎮痛：頭痛、耳痛、症候性神経痛、腰痛症、筋肉痛、打撲痛、捻挫痛、月経痛、分娩後痛、がんによる疼痛、歯痛、歯科治療後の疼痛、変形性関節症。②次記疾患の解熱・鎮痛：急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む）。③小児科領域における解熱・鎮痛

**【用】**(内) ①1回300～1000mg、投与間隔は4～6時間以上。1日総量として4000mgまで。空腹時の投与禁止希望。②1回300～500mgを頓用。1日2回ま

## 01 解熱・鎮痛・抗炎症剤

01

で、1日1500mgまで、空腹時の投与禁止希望。③1回10～15mg/kg、投与間隔は4～6時間以上とし、1日総量60mg/kgまで、成人の用量を超えない、空腹時の投与禁止希望

**【警告】**1. 本剤により重篤な肝障害が発現するおそれがあることに注意し、1日総量1500mgを超す高用量で長期投与する場合には、定期的に肝機能等を確認するなど慎重に投与すること。（「重要な基本的注意」の項参照）

2. 本剤とアセトアミノフェンを含む他の薬剤（一般用医薬品を含む）との併用により、アセトアミノフェンの過量投与による重篤な肝障害が発現するおそれがあることから、これらの薬剤との併用を避けること。（「過量投与」の項参照）

**【禁】**消化性潰瘍、重篤な血液異常・肝障害・腎障害・心機能不全、本剤の成分に対し過敏症、アスピリン喘息又はその既往歴

**【重副】**ショック、アナフィラキシー様症状、Stevens-Johnson症候群、Lyell症候群、喘息発作の誘発、肝機能障害、黄疸、顆粒球減少症

### ▶PL配合顆粒

㉔

PL〔配合剤〕

〔塩野義〕

1g中：

サリチルアミド	270mg
アセトアミノフェン	150mg
無水カフェイン	60mg
プロメタジンメチレンジサリチル酸塩	13.5mg

**【効】**感冒若しくは上気道炎に伴う次記症状の改善及び緩和：鼻汁、鼻閉、咽頭痛・喉頭痛、頭痛、関節痛、筋肉痛、発熱

**【用】**(内) 1回1gを1日4回

**【警告】**1. 本剤中のアセトアミノフェンにより重篤な肝障害が発現するおそれがあるので注意すること。  
2. 本剤とアセトアミノフェンを含む他の薬剤（一般用医薬品を含む）との併用により、アセトアミノフェンの過量投与による重篤な肝障害が発現するおそれがあることから、これらの薬剤との併用を避けること。（「過量投与」の項参照）

**【禁】**本剤の成分、サリチル酸製剤（アスピリン等）、フェノチアジン系化合物又はその類似化合物に対し過敏症、消化性潰瘍、アスピリン喘息又はその既往歴、昏睡状態又はバルビツール酸誘導体・麻酔剤等の中枢神経抑制剤の強い影響下、緑内障、前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患、2歳未満の乳幼児、重篤な肝障害

**【重副】**ショック、アナフィラキシー様症状、剥脱性皮膚炎、Stevens-Johnson症候群、Lyell症候群、再生不良性貧血、汎血球減少、無顆粒球症、溶血性貧血、血小板減少、喘息発作の誘発、間質性肺炎、好酸球性肺炎、劇症肝炎、肝機能障害、黄疸、乳児突然死症候群、乳児睡眠時無呼吸発作、間質性腎炎、急性腎不全、横紋筋融解症、緑内障

## 4 非ステロイド性抗炎症剤

### 4.1 酸性抗炎症剤

#### 4.1.1 サリチル酸

(アスピリン)

### ▶アスピリン「ヨシダ」

Aspirin 原末

〔吉田〕

**【効】**①慢性関節リウマチ、リウマチ熱、変形性関節症、強直性脊椎炎、関

節周囲炎，結合織炎，術後疼痛，歯痛，症候性神経痛，関節痛，腰痛症，筋肉痛，捻挫痛，打撲痛，痛風による痛み，頭痛，月経痛。②次の疾患の解熱・鎮痛：急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む）。③川崎病（川崎病による心血管後遺症を含む）

**【用】**(内) ①1回0.5～1.5g，1日1.0～4.5g，1日4.5gまで。②1回0.5～1.5gを頓用，1日2回まで，1日4.5gまで。空腹時の投与は避けさせることが望ましい。③急性期有熱期間：1日30～50mg/kgを3回に分割。解熱後の回復期から慢性期：1日3～5mg/kgを1回

**【禁】**川崎病を除く効能又は効果に使用する場合：本剤又はサリチル酸系製剤過敏症，消化性潰瘍，重篤な血液異常・肝障害・腎障害・心機能不全，アスピリン喘息又はその既往歴，出産予定日12週以内の妊婦。川崎病（川崎病による心血管後遺症を含む）に使用する場合：本剤又はサリチル酸系製剤過敏症，消化性潰瘍，出血傾向，アスピリン喘息又はその既往歴，出産予定日12週以内の妊婦

**【重副】**ショック，アナフィラキシー様症状，脳出血等の頭蓋内出血，肺出血，消化管出血，鼻出血，眼底出血等，Stevens-Johnson症候群，Lyell症候群，剥脱性皮膚炎，再生不良性貧血，血小板減少，白血球減少，喘息発作の誘発，肝機能障害，黄疸，消化性潰瘍，小腸・大腸潰瘍

#### 4.1.2 フェナム酸

(メフェナム酸)

▶ポンタールカプセル250mg  
Pontal 250mg/Cp (第一三共)

**【効】**①手術後及び外傷後の炎症及び腫脹の緩解。②次記疾患の消炎，鎮痛，解熱：変形性関節症，腰痛症，症候性神経痛，頭痛（他剤が無効な場合），副鼻腔炎，月経痛，分娩後疼痛，歯痛。③次記疾患の解熱・鎮痛：急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む）

**【用】**(内) ①②1回500mg，その後6時間毎に1回250mg。空腹時の投与禁止希望。③1回500mgを頓用。原則1日2回までとし，1日1500mgまで。空腹時の投与禁止希望

**【禁】**消化性潰瘍，重篤な血液異常・肝障害・腎障害・心機能不全，本剤の成分に対し過敏症，アスピリン喘息又はその既往歴，重篤な高血圧症，過去に本剤により下痢，妊娠末期の婦人

**【重副】**ショック，アナフィラキシー様症状，溶血性貧血，無顆粒球症，骨髓形成不全，Stevens-Johnson症候群，Lyell症候群，急性腎不全，ネフローゼ症候群，間質性腎炎，消化性潰瘍，大腸炎，劇症肝炎，肝機能障害，黄疸

#### 4.1.2 フェナム酸

(メフェナム酸)

▶ポンタールシロップ3.25%  
Pontal 32.5mg/mL (第一三共)

**【効】**次記疾患の解熱・鎮痛：急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む）

**【用】**(内) 小児：1回6.5mg/kgを標準用量として頓用，原則として1日2回まで，空腹時の投与禁止希望

**【禁】**消化性潰瘍，重篤な血液異常・肝障害・腎障害・心機能不全，本剤の成分に対し過敏症，アスピリン喘息又はその既往歴，重篤な高血圧症，過去に